

# えがおつながる若者新聞

人とつながる 笑顔がつながる  
明日とリンクする アストリンクです

特定非営利活動法人  
若年者社会参加支援普及協会  
アストリンク

〒305-0051 つくば市二の宮1-2-2  
Tel/Fax: 029-859-8606 携帯: 080-1018-7670  
http://wssi.or.jp Email: info@wssi.or.jp

## 不登校・ひきこもり・ニート問題 支援機関の連携進む

ひきこもりの若者の数として、内閣府の調査では全国に約70万人いるという結果が出ており、更には、厚生労働省の研究班によると全国の世帯の少なくとも0.5%が一人以上のひきこもり状態の子供を持つとされる。これを単純に人口で割ると茨城県では、少なくとも1万6千人以上、5千500世帯以上となる計算だ。全国調査を基にした推算に過ぎないが、茨城県だけひきこもりの若者が少ないとは考えにくい。

脱線するが、若者だけではなくその上の世代でも、ひきこもり状態が長期化したケース、リストラや定年退職後のひきこもり状態もこれらの数字の外に相当数いる事は想像に難くない。きちんとした数字が出ていないカテゴリーとして不登校がある。茨城県教育委員会の発表によると、平成23年度の茨城県内の病気や経済的な理由を除いたいわゆる不登校児童・生徒数(公立)は、小学校と中学校を合わせて2千738人である。

不登校・ひきこもり状態の当人が苦しみ、誰にも言えない悩みを抱えているのはもちろんの事、その家族も、悩み苦しみ知人など誰にも相談出来ないことも多い。中には、家族も職場等での交流が少なくなったり、仕事や家事に支障が出たりするケースも少なくないのである。

この様にひきこもりが社会現象になってきている現在、その対処をひきこもり当人及び家族だけに押し付けることに無理がある。当人・家族・社会のそれぞれが出来る事を模索して行動していく事が必要な時を迎えていると言えるだろう。

ひきこもりとは、「不登校や就労の失敗をきっかけに、何年もの間自宅に閉じこもり続ける青少年の状態像を指す言葉である。診断名ではなく状態像であり、いくつかの定義があるが、共通するのは①6か月以上社会参加していない、②非精神病的な現象である、③外出していても対人関係がない場合はひきこもりと考える、の3点である。」とひきこもり支援者読本(内閣府)で医師齋藤環氏が明言している。



## アストリンク

若年者社会参加支援普及協会アストリンクは、不登校・ひきこもり・ニート問題にマクロな視野に立った大きな連携と活動で対処する必要性を考え、いくつかの支援団体と個人が集まり設立されたNPO法人である。NPO法人や行政、ボランティアなどのネットワーク作りや居場所などの受け皿づくりをしたり、どこに相談して良いかわからない方のための無料電話相談や有料で

## 家から社会へ

アストリンクでは、より社会参加へ進むためのキーポイントを次の三つと考えていて、これらのバランスを考慮することが重要であると捉えている。

- ①勉強、就労、コミュニケーション能力のアップ
- ②楽しむこと、それを共有することの経験
- ③人の役に立つこと、人が喜んでくれることに喜びを感じる

①は、分かりやすいので、周りも当事者も気づいているだろう。しかし、①に偏りすぎて、余計に苦しくなってしまう悪循環に陥りやすい。そして常識的に考えると、①ができていない、つまり義務が果たせていないのに遊んではいけないと、②が出来なくなる。また、自分のことができていないのに、他人にかまっている暇はないだろうと、③が出来なくなっていく。

の面談相談、訪問サポートも行っている。多くの支援団体と意見を交わし、ボランティアの成長を見守り、当事者と笑いながら未来を語り、どのような支援が足りないかを考え、活動する日々である。まだ十分ではないけれど、茨城県内には素晴らしい支援者がたくさんいる。諦めずに、焦らずに、一歩一歩前に進んでいきたいと考える。

ただでさえ苦しい状況の中、さらに苦しい道を強いては、さらに動けなくなる。中には、自分がやりたいことを考えることさえもいけないと思ひ込んでいる不登校・ひきこもり・ニートの当事者もいる。家族、社会もその様に信じ込んでいる場合があるが、この悪循環から抜けなければいけない。時には、苦しむことも大切だが、それ以上に楽しむことや喜ぶことが動くことへの大きなモチベーションになるであろう。

一人でも周りとの関係を絶つた状態から、社会参加への道は多く存在する。相談、訪問サポート、社会体験(農業体験やボランティアなど)、お茶会やお楽しみ会のフリースペース、勉強や就労の支援、動物とのふれあい、宿泊体験、家族会。様々な体験を組み合わせて、より各々が希望する生き方に向かう毎日を大切にしたい。(アストリンク理事 浅井和幸)

## ボランティアの声

新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い致します。平成28年1月発行の「えがおつながる若者新聞」には、以下の事が書かれていました。アストリンクでは、より社会参加へ進むためのキーポイントを次の三つをバランスを考慮することが重要である。

- ①勉強、就労、コミュニケーション能力アップ
- ②楽しむこと、それを共有することの経験
- ③人の役に立つこと、人が喜んでくれることに喜びを感じる

昨年(2015年)9月からの半年間、私がアストリンクのボランティア活動を通して感じた②楽しむことの重要性について報告させていたきたいと思ひます。

早起きした朝は、CAPINにいる犬と散歩していました。里山からの朝日はとても気持ちよいです。

トマト農園では、出荷には熟れ過ぎってしまったトマトを試食させていただきました。とっても美味しかったです。単純に、私は、犬が好きで、自然が好きで、植物が好きなので、自然が大好きで、行動の原動力で、案外シンプルなものではないでしょうか。好きなことを楽しんでやる。

今年一緒にボランティア活動してみませんか？  
(アストリンク会員 石曾根敦子)

## アストリンク会員募集

アストリンクは、仲間を随時募集しています。社会について、茨城について、一緒に悩み、考え、創造していける人、是非、活動に参加してください。興味のある方は、気軽に声をかけてください。

- ◎入会金 (正会員・賛助会員のみ)5千円
- ◎年会費 (1)正会員 1万円(団体)、5千円(個人)  
(2)賛助会員 1口5千円(1口以上)  
(3)活動会員 個人・一般3千円、学生1千5百円

## アストリンクメニュー～(平成26年1月現在)

- 1. 相談** 電話相談 無 料 15分程度の情報提供  
面談相談 4,000円 予約制、1時間程度、現状に対し次の対応策を考える。  
\* 利根町社会福祉協議会、「ホッ・とね広場」青少年の居場所づくり事業  
(0297-68-7771、利根町布川2968、利根町民すこやか交流センター内)  
面談相談(無料) 毎月第2水曜日  
(1日あたり2組、利根町民優先、利根町民は、無料訪問サポートあり)  
\* \* 無料合同相談会 10カ所程度の団体の協力により年一回程度、行っている。  
(他地区でも、他団体主催の合同相談会が行われている。)
- 2. 訪問サポート** 3,000円/1回(30分程度)  
おしゃべりや一緒にゲームをしたり、散歩や勉強を見たりなどをする。
- 3. 体験サポート** 無 料 農作業や動物の世話、ボランティア活動、就労等をサポーターと体験する。  
毎月第二日曜日、第四月曜日にファーム齊藤で農業体験開催。
- 4. フリースペース** おしゃべり、ボードゲーム、事務所掃除や事務作業体験などをする。  
\* アストリンクの日 無料 毎月第一日曜日、9時～12時、17時～19時  
アストリンク事務所で開催  
\* ホッ・とね広場 無料 毎月第二水曜日、13:30～16:00  
社会福祉法人 利根町社会福祉協議会で開催  
\* ひたちやかい 無料 毎月第二金曜日 14時～16時  
社会福祉法人 日立市社会福祉協議会で開催
- 5. 事例検討会** 年3回程度、NPOや行政等が集まり、有効な活動の共有や事例検討を行う。

この社会は あなたが感じているように  
冷たく 厳しく つらいものかもしれない  
それでも この社会は あなたが考えているよりも  
ずっとずっと 楽しく 優しく もっともっと温かいものです  
そして 少しでも動いたら  
あなたを必要としてくれる場所  
行動を喜んでくれる人が そこにあります

アストリンク 理事長 浅井 和幸

〒305-0051 つば市二の宮1-2-2 029-859-8606、080-1018-7670  
メール: info@wssi.or.jp http://wssi.or.jp フェイスブックページ: <https://www.facebook.com/astolink>